

平成30年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

| | | |
|--|---|--|
| <h4>1 一人一人の児童生徒の尊重</h4> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。</p> | <h4>2 友達への思いやり</h4> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p> | <h4>3 道徳・心の教育の充実</h4> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p> |
|--|---|--|

【学校から】
 ○一人一人を大切にされた指導については、きずなアンケートや教育相談等の定期的な調査に加え、生活ノートや生徒との会話、家庭との連絡を密に行い、生徒の心の状態を常に把握しようとしている。このために「4」「3」の割合が高いと考えられる。
 ○友達への思いやりについて「4」「3」の割合が高く、良好な状態である。しかし、「4」と答えた生徒と教師の割合に差があり、「思いやり」ある行動に対する生徒と教職員の認識の違いが大きいと判断される。教職員は、緊張感を絶やさずに、アンテナを高くして、生徒の人間関係把握に努める必要がある。
 ○道徳・心の教育の充実について、保護者、教職員の評価は「4」「3」の割合が高い。教職員が、道徳・心の教育の充実の重要性を共通理解し、実践している成果であると考えられる。

②確かな学力を育む教育の推進

| | | |
|---|--|---|
| <h4>4 意欲的な学習態度</h4> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p> | <h4>5 授業力向上</h4> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p> | <h4>6 ICT活用</h4> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p> |
|---|--|---|

【学校から】
 ○意欲的な授業の取り組みについて「4」「3」は、昨年度と同様に高かった。落ち着いた授業風景が容易に想像できる。ただ、「4」と答えた生徒と教職員の割合が生徒65%に対して、教職員が22%であった。子どもの一生懸命さをどうとらえ、評価するかについての研修・研究が必要であろう。
 ○授業力向上について、教職員は教材研究を十分行っているという認識であるが、それがうまく子どもに伝わっていない。「1」と答えた生徒が13名いることを、生徒からのメッセージとして受け取り、今後とも教材研究・「わかる」授業、「楽しい」授業づくりに邁進しなくてはならない。
 ○ICT活用について、「4」「3」と答えた生徒、教職員は昨年度80%であったが、本年度は両者とも90%を超えた。本年度から全クラスに電子黒板が設置され、授業でも盛んに利用されるようになってきたことによるものである。今後も、電子黒板等ICT機器の有効活用と全職員、全教科での活用を図るために、定期的に研修を繰り返していく必要がある。

③健やかな体を育む教育の推進

| | |
|---|--|
| <h4>7 健康づくり</h4> <p>子どもは、好き嫌いをなく食事をして適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p> | |
|---|--|

【学校から】
 ○健康づくりに関しては概ね良好といえる。学校でも、学校保健委員会による啓発活動や各種の通信によって、健康づくりへの意識を絶やさないようにしている。保護者と教職員の情報交換を今後も推進していく必要がある。

| | |
|--|--|
| <h3 style="text-align: center;">①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</h3> <h4>8 児童生徒理解</h4> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。</p> | <h3 style="text-align: center;">②特別支援教育の推進</h3> <h4>9 いじめや問題への対応</h4> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p> |
| <h4>10 学校の支援体制</h4> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p> | |

【学校から】
 ○教職員が日頃から生徒理解に努めていることがよく分かる。ただ、「1」と答えた生徒が実数で15名おり、今後も担任を中心とした組織的取り組みによって生徒理解を推進することが重要であり、これが「いじめや問題への対応」で「1」と答えた7名の生徒への支援にもつながると考えられる。他の質問項目に対して「2」「1」と答えた保護者の比率が高く、保護者との信頼関係の構築、強化に努めなくてはならない。今後ますます保護者との情報共有を意図的に行う必要がある。

| | |
|--|---|
| <h3 style="text-align: center;">①子どもたちの身近な安全対策の充実</h3> <h4>11 安全と事故防止</h4> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p> | <h3 style="text-align: center;">②最適な学習環境の整備</h3> <h4>12 施設・設備の安全管理</h4> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p> |
|--|---|

【学校から】
 ○想定外を想定した安全教育、避難訓練を計画しなければならぬ。熊本地震の体験が風化しないよう、同規模の地震が発生しても被害を最小限に食い止めることができるよう、より現実味のある避難訓練を工夫していく必要がある。また、事故やトラブルがある度に危機管理マニュアルも更新していく必要がある。

【学校から】
 ○電子黒板の全教室設置によって、楽しい授業、深い学びがより実現しやすくなった。しかし、こうした機器は高価で、壊れやすいため、使用マニュアルを作って、その保管と機能維持を行わなければならない。また本校の校舎、設備は全般的に老朽化が進んでおり、修繕作業をしながらも、「学校を大切に」心の育成を行っていかねばならない。

③家庭・地域社会との連携強化

| | |
|---|--------------------------------------|
| 13 教育方針・目標の理解 | 14 家庭や地域との連携協力 |
| 学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。 | 学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。 |
| | |
| 【学校から】 ○教職員と保護者が一つのチームとして生徒を指導・支援していくためには、教育方針・目標の共通理解をさらに徹底する必要がある。年度当初のPTA総会や家庭訪問、学校・学級通信、あるいはHPや安心メール等、様々な手段によって保護者や地域に発信していく必要がある。今後ますます進行していく「開かれた学校づくり」のために、学校と地域の交流をさらに促進する必要がある。 | |

⑧本校の教育

| | | |
|--|-------------------------|------------------------------|
| 15 あいさつ | 16 家庭学習 | 17 きまりを守る |
| 生徒は、家庭や地域、学校でよく挨拶をしていると思いますか。 | 生徒は、家庭学習に取り組んでいると思いますか。 | 生徒は、学校や社会生活のきまりを守っていると思いますか。 |
| | | |
| 【学校から】 ○あいさつ、家庭学習、きまり、どの項目に関しても、教師の求める水準と生徒が「これでよし」とする水準に格差がある。挨拶の意味、家庭学習の目的、きまりを守ることの意義を、一人一人の生徒が理解できるように、担任を中心に生徒指導部、特活部、研究部等が連携して指導・支援していく必要がある。「あ・そ・ふ・じ」や「無言掃除」、校訓「自主・勤勉・協調」が単にスローガンにならないよう、しっかりした手立てを講じていく必要がある。 | | |

来年度の具体的な取り組みについて

○教育目標方針については、さらに分かりやすく、学級・学校便り、PTA新聞、PTA総会、家庭訪問等、あらゆる機会を通して情報発信を行う。

○毎時間の授業の充実のための教材開発を続けていくとともに、ICT機器の活用を中心とした授業改善と学力充実、基本的生活習慣の確立を中心にして、個に応じた学習のさらなる徹底を図っていく。

○一人一人の生徒を大切に教育を推進するために、常に組織的を意識して行動し、生徒や保護者、地域のニーズに応じていく必要がある。そのために、情報の発信、伝達、共有、実践を的確に行う体制を確立する。また、生活ノートや日頃の関わりを通して、生徒や穂者の「思い」を大切に、常に把握しておくようにする。さらに、生徒指導主事や特別支援コーディネーターを窓口、児童相談所等の外部機関や専門家との連絡を絶やさず行き、的確な指導・支援が随時行えるようにする。

○学校の職員や生徒会だけでなく、PTAや地域の諸団体と連携しながら、挨拶、マナーなどの規範意識を育てる指導の充実を図る。

○安全、食育、総合・教科学習の面から、保護者・地域との人材交流、情報の共有をさらに進め、地域に根ざした教育を充実させる。

○エアコンの導入により快適な学習環境が整備された。快適さを享受するだけでなく、エアコンのメンテナンス（フィルター清掃等）を定期的に行うとともに、授業後の空気入れ替え、給食前の手洗い、風邪等罹患者のマスク着用等、衛生管理にはエアコン設置以前よりも徹底して行う必要がある。同時に、基本的生活習慣・マナーの確立を図る。

○熊本市学力テストのSYENシステムや全国学力学習状況テストを受けて、より生徒の学力を分析し、きめ細かな指導の工夫改善に努めたい。

○校舎の老朽化によって破損箇所が生じたら、すぐに教育委員会へ連絡して必要な措置を講じる。

学校関係者評価

○実際に授業風景を見たり、保護者からの話を聞いたり、アンケート結果から、子どもたちが楽しく学校生活を送っていることがよく伝わってくる。子どもたちが生き生きした目で授業に参加しているところを見て、感銘を受けた。また、先生方も電子黒板を利用されたり、様々な工夫を凝らして、授業されているのがよく伝わった。

○教科指導等では、一人一人のニーズに応じた教育活動の工夫が見られた。

○生徒指導・教育相談では、あいさつの励行や規範意識の醸成を図ってきているが、さまざまな事情を抱えている子どもがおり、細やかな配慮をしながらすべての子どもたちが心豊かに育ってくれるようにしていきたい。

○託麻中校区では地域の支えがしっかりしているので、教職員と保護者の連携・協力をさらに積極的に深めていきたい。

○教職員の高齢化が進んでいるが、これは全市的問題。マンパワーの充実とミドルリーダーの育成は、大きな課題である。

○1000人規模のマンモス校とは思えないほどの落ち着いた方である。環境整備にも力を入れられているようで、どの教室も整理整頓が行き届いていた。

○青少協で、地域の挨拶運動をやっているが、託麻中学校の生徒は90%の生徒が、大声で挨拶を返してくれる。10%の生徒がチラッとこちらを見るだけ。こうした生徒が積極的に挨拶するように指導をお願いしたい。

○いじめは（重大事態としては）ないが、不登校生徒が増えつつあるようだ。今後は、学校の課題をオープンにして、地域ぐるみで組織的に対応していくことが大事だと思う。